

電車どおり



ホームページはこちら



今月の表紙
ワッショイはこだて
函館厚生院
山車

もくじ

- 1. ワッショイはこだて参加 … 2p
- 2. 日本ハムファイターズに慰問いただきました … 2p
- 3. ロボット支援下手術特集③
～ロボット支援下手術の特徴～ … 3p
- 4. 入院から退院を見据えた支援
～医療ソーシャルワーカーの仕事～ … 4p

立秋を境に、暑中見舞いから
残暑見舞いへ。
まだまだ暑いのに「残暑」と呼
ぶのは、暦の上では秋が始まる
から。
暦と季節のずれを感じるのも、
日本の夏ならではのですね。



基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組めます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心で安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。

- 【患者さまの権利】
- ・安全で良質な医療を平等に受ける権利
 - ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
 - ・セカンドオピニオンを求める権利
 - ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
 - ・個人のプライバシーが守られる権利
 - ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利
- 【患者さまの義務】
- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
 - ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に努める義務
 - ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
 - ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
 - ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務

1. ワッショイはこだて参加

8/3(月)のワッショイはこだて(千代台・五稜郭コース)に、函館厚生院として参加しました。

当院からは約150名が参加し、踊りながら町を練り歩きました。
当日は天候にも恵まれ、気持ちよく踊ることができました。

暑い中、沿道からはたくさんの声援をいただきました。
ありがとうございました。



2. 日本ハムファイターズに慰問いただきました

2軍公式戦前日の7/3(金)、日本ハムファイターズの稲葉監督、今川選手、宮崎選手が、当院の小児科病棟を慰問してくださいました。入院中の患儿たちと交流を深め、元気を与えてくださいました。

本当にありがとうございました。

また、ユニフォームと色紙にサインをいただきました。
1F 総合案内横に展示しております。お立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。



3. ロボット支援下手術特集③ ～ロボット支援下手術の特徴～

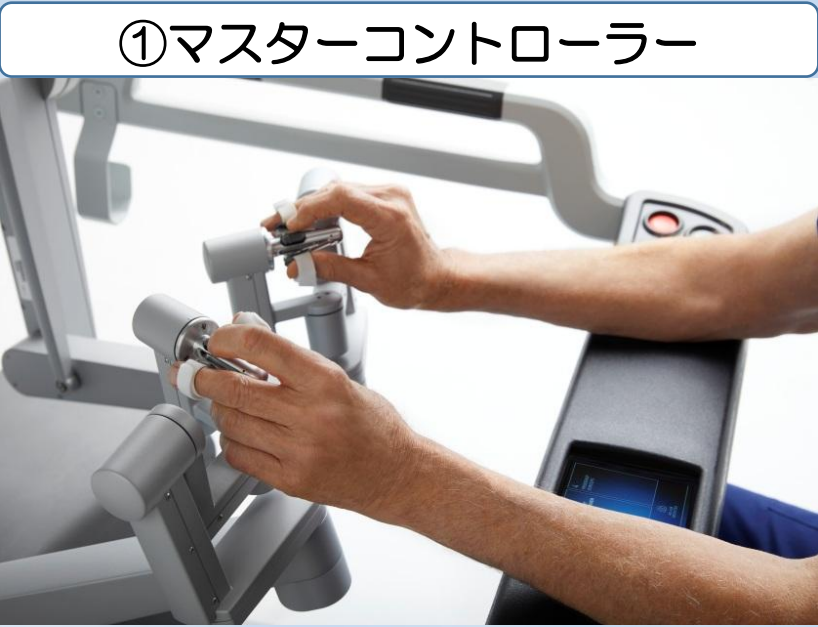
消化器外科領域の手術は、開腹手術から腹腔鏡手術に移行し定着しています。
腹腔鏡手術とは、ポートと呼ばれる腹腔内へのアクセス器具を介して腹腔内に炭酸ガスを充満し、挿入した内視鏡の映像をモニターに映しながら、鉗子を用いて把持・剥離・切開を行い目的臓器を摘出する手術です。
しかしながら、腹腔鏡手術の欠点として、直線的な動きしか出来ないこと、組織を把持している時の手振れのため出血や視野が動いてしまうなどの人為的作用が手術に影響する点が挙げられます。
一方、ロボット支援下手術では、これらの欠点を補完した手術が可能となります。

ロボット支援下手術では、患者様から少し離れた Surgeon console と呼ばれるボックス内で、マスターコントローラーに指を通し操作することで（下図①）、患者様に接続しているロボットアームの鉗子を腹腔内で自由に動かすことができます（下図②）。

さらに手振れ補正機能、多関節機能、三次元高解像度画像、モーションスケールという機能を利用して手術を行います。手振れ補正機能とは、通常の腹腔鏡手術ではポート内に鉗子を入れ組織を把持牽引する際に、手ぶれによる小血管の破綻・出血が起こりうる状況を、ロボットアームに装着した鉗子で把持牽引し固定することで、安定した視野が確保され出血を回避できるというものです（下図③）。

多関節機能とは、ロボットアームが有する7つの関節により腹腔内で自由に鉗子の先端が調整可能となった機能で、直線的な動きである従来の腹腔鏡手術では届かなかった部位へ容易に手術操作を行えるようになりました（下図④）。

さらに、三次元画像とズーム機能による拡大視野の効果で臓器間や鉗子などの位置情報がより正確となり、出血の少ない精緻な手術が可能となります。モーションスケール機能とは、実際の手の動きが1/2から1/3に縮小されて術野に反映される機能で、鉗子操作の精度が向上します。カメラの視野も自由に執刀医の意思で移動が可能であり、手術時間の短縮につながるため、従来の腹腔鏡手術に比べ安全性がさらに向上した低侵襲な手術が可能となりました。



当院ホームページ「ロボット支援下手術について」からもご覧いただけます。

4. 入院から退院を見据えた支援～医療ソーシャルワーカーの仕事～



突然の病気やケガでの入院は、患者さんやご家族に大きな動揺をもたらします。

退院後の生活や仕事、経済的な問題など、不安や悩みを抱えても

“どこに相談したらいいのかわからない”
と感じる方も多いのではないのでしょうか。

そんなときに頼りになるのが「社会福祉士」です。社会福祉士は、生活に困りごとを抱えた人の相談に応じ、必要な制度やサービスにつなぐ「福祉の専門職」です。さまざまな福祉制度について学び、相談を受けて支援するための知識と技術を身につけています。

病院に所属している社会福祉士は、
「医療ソーシャルワーカー（MSW）」
として配置され、入院した患者さんやご家族の「退院後の生活」や「医療費」などの不安を、福祉の専門知識で解決へと導く相談窓口です。

医療福祉相談室 MSW(社会福祉士)
菅野 貴規

患者さんやご家族に対し、病状の回復にあわせて退院後の生活をイメージしていただき、リハビリ病院や施設での療養が必要な方の調整、介護保険サービスや障害福祉制度の活用、医療費の支払いに不安がある場合の公的制度のご案内など、個別具体的な支援を提案します。

医師や看護師、リハビリ専門職などと連携しながら、安心して治療に専念できる環境づくりをサポートし、退院後も住み慣れた地域で生活できるよう、ケアマネジャーや訪問看護師への橋渡し役も担います。

「医療ソーシャルワーカー」という名前は耳慣れないかもしれませんが、患者さんやご家族の不安を和らげ、安心して次のステップへ進むための「人」と「制度」と「地域の支援」をつなぐコーディネーターのような存在です。

「こんなことを相談していいのかな」「迷惑ではないかな」と心配される方もいますが、社会福祉士は、まさにそうした不安や迷いを受け止めるためにいます。

困りごとが大きくなる前に早めに話してもらうことで、負担を軽くできる場合も少なくありません。

ご自身の生活や療養について少しでも悩むことがあれば、一人で抱え込まず、医療ソーシャルワーカーへご相談ください。

※今月号の背景：ひまわり(ロイヤリティフリー pixabayより)